

情報連絡員報告総括表(令和5年6月期)

富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油・味噌製造業	↑	→	↑	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>大幅に上昇した原材料コストの増加分については、価格転嫁が進んでいる。</li> <li>度重なる値上げによる生活防衛志向によって、家計の食費への支出は勢いを欠き、値上げ後に売れ行きが伸び悩む食品もある。</li> <li>電気代やガス代も値上がりしていることから、緩やかながらも値上げは断続的に続く見込みである。</li> <li>消費者の「値上げ疲れ」を回避するために、付加価値のある商品やサービスを取引先や消費者に提供し、価格転嫁に繋げていくことが求められる。</li> </ul>
	パン製造業	↓	→	→	→	↓	↓	→	→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>原材料価格の値上がりが止まらない。</li> <li>働き方改革が原因なのか、企業活動が弱く、残業食が無くなっている。</li> <li>企業の撤退などにより、取引先が減少している。</li> </ul>
	豆腐製造業	↑	↑	↑	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>絹とうふが売れる時期ではあるが、業界の景気動向についてはあまり良好とは言えない。</li> <li>原材料や副資材、エネルギー価格の高騰によって収益が逼迫しているため、豆腐製造事業者は仕入れ商品(副資材)や包装容器に至るまで見直しをかけている。</li> </ul>
繊維工業	ニット製造業	→	→	↑	→	→	→	→	→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣料関連は若干減少傾向、車関連資材は若干回復傾向にある。</li> <li>材料費や電気料金の上昇による収益圧迫が継続している。</li> <li>値上げ交渉については改善に向かっている。</li> </ul>
	絹人織織物製造業	↓	↑	→	→	↓	→	↓	→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>化合繊維物、絹織物ともに、状況は前月と変わっていない。</li> <li>売上が低迷し、売上維持に苦悩している。</li> </ul>
	綿・スフ織物業	→	→	→	→	→	→	→	↓	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>稼働率が上昇しているにもかかわらず、原材料費、燃料費、電力費、人件費等全ての経費が値上がりしているため、収益はマイナスが続いている。</li> </ul>
木材・木製品	一般製材業	↓	→	↓	↓	↓	↓	↓	→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>木材利用の大半を占める新設住宅着工戸数の減少は、需要の低迷を招き、荷動きや客足の悪化、木材価格の下落につながっている。</li> <li>また、木材以外の住宅資材全般の高騰で住宅価格が上昇し、住宅の規模が小さくなっているため、木材使用量も減少している。</li> <li>住宅需要の回復が見込めないことや人件費・電気代の高騰によって、木材関連事業者の稼働率は低下している。</li> <li>需要の低迷によって、ロシア材取扱事業者の手持ちの製品在庫が解消せず、依然高値の原板在庫が手元にある。</li> <li>昨年夏から下落傾向が続いている県産材素材価格は、今年度に入りほぼ横ばいであり、ウッドショック前に近い水準となっている。</li> </ul>
	その他の木製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul>

印	刷印刷業	→	→	↗	→	→	→	→	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷資材の値上がりは依然として続いているが、価格転嫁の動きは各社まちまちである。</li> <li>・7月に入り、各封筒メーカーが一斉に足並みを揃えて値上げを発表している。</li> <li>・更に用紙、インキ、刷版等についても何度目かわからないが、新たな値上げ情報がある。</li> </ul>
化学・ゴム	医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原材料や副資材、燃料の価格上昇が続いている。</li> <li>・生薬原料では、入手困難な状況が続いている。</li> </ul>
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の県全体の生コンクリート出荷数量は、前年同月比約8%の減少となっている。</li> </ul>
	コンクリート製品製造業	→	→	↗	→	→	→	→	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人手不足が続いている。</li> </ul>
	骨材・石工品等製造業	↗	→	↗	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨材需要は、堅調な状況が続いている。</li> <li>・2年続けて骨材価格の値上げを実施したが、今年度に入り、諸物価の高騰や電気料金の値上げ、原材料や生産コスト増の影響を受け、組合員からは更なる値上げの要望が出ている。</li> </ul>

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物業	→	→	↗	→	→	→	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産量について、前年同月並みの生産量を確保しているが、先行きの景況感は悪化している。</li> <li>製造コスト上昇分の価格転嫁について、上手く転嫁している企業と転嫁出来ていない企業との差が目立ち始めている。</li> </ul>
	銅・同合金鑄物製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	アルミニウム製品製造業	↗	→	↗	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄工業製造部門は、前年同月に比べて生産受注が持ち直し傾向にある。</li> <li>実態的に業界の景気は好転しているが、製品納入期間には不安定感がある。</li> <li>材料費の高騰、溶接作業による電気代の高騰、製品運搬費の高騰、物価高騰による賃上げ等、課題が山積している状況にある。</li> </ul>
	めっき加工業	↗	→	↗	→	↗	→	↘	↘	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気代等の高騰による販売価格への転嫁によって、売上は増加している。</li> <li>電気代等の高騰の影響がまだ少ないことと、販売価格値上げ効果によって、収益状況は若干好転している。</li> <li>自己都合による退職者などによって、雇用人数が僅かに減少している。</li> </ul>
一般機器	金属工作機械製造業	↘	↗	→	→	↘	→	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>受注状況について、前年同月比92.4%となっている。工作機械関係は大幅に増加、ロボット関係は横ばい、その他工具、軸受、油圧関係は減少し、工作機械関係が受注増加傾向にあり、他をカバーしている。</li> </ul>
	金属加工機械製造業	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・特になし。
	非金属用金型製造業	↘	→	↘	→	↘	→	↘	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、取引先の減少に伴い業種幅も狭まりつつある中、コロナ禍による営業自粛もあり、より一層その傾向に強まりが見られる。業種幅の狭い限定された取引だけでは相手先の業績動向の影響を回避することは難しく、事業経営の安定性を高めるため、取引先の拡大、現況の関係性の見直し、再構築等の対応が求められる状況である。</li> </ul>
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	↘	→	→	→	↘	→	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子部品業界は昨年夏頃から低迷し、未だ回復の目途は立っていない。</li> <li>原材料価格の上昇が一服し、供給が安定してきている。</li> <li>エネルギー価格の上昇が影響して、利益率が低下している。</li> <li>サービス業の雇用が増加している影響から、人材獲得が困難になってきている。</li> </ul>
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	↗	↗	→	→	↗	→	→	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅行客数がコロナ禍前の状況に戻りつつあり、イベントや展示会の記念品等の需要に期待している。</li> </ul>

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	セメント卸売業	↘	→	↗	→	↘	→		→	↘	・昨年、売値を大幅に上げた結果、価格差に誘引され、相当数、員外組合員のホームセンターのセメント袋に流れたと思われ、乖離幅が縮小しない限り、この傾向は続くと思われる。
	非鉄金属製品卸売業	→	↗	↗	↘	↘	↘		↘	↘	・見込注文を製造しているため、正式発注までの間の在庫や資金に苦労している。 ・コロナ禍明けの人の動きによる、受注量増加を期待している。
小売業	鮮魚小売業	↘	→	↘	→	↘	→		→	↘	・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。
	食肉小売業	→	→	↗	→	↘	↘		→	→	・事業所によってはインバウンド需要による売上の増加はあるが、一般小売りに関しては増加の実感はない。 ・継続してエネルギーコスト、仕入れコストが上昇しているため、収益性だけでなく資金繰りも悪化させている。
	野菜・果実小売業	↘	→	→	→	→	→		→	→	・富山卸売市場の売上高は、前年同月比95%、青果組合全体の売上高は、前年同月比89%となっている。
	家庭用電気機器小売業	↗	↘	↗	→	→	→		→	→	・とやま省エネ家電購入応援キャンペーンが始まり期待している。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	ガソリンステーション	↘	→	↘	↘	↘	↘		↘	↘	・カーボンニュートラルの進展に伴いガソリン等の需要減が見込まれることや、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制などSSの経営環境は厳しさを増している。カーボンニュートラル対策を模索しながらも、平時・緊急時を通して燃料の安定供給に取り組んでいる。 ・需要の回復感は弱く、また、物価高による利用者の節約志向が響き、6月のガソリン販売量は、前年同月比横ばいか微減の見込みである。 ・ガソリン販売価格については、石油元売りなどへの燃料油価格激変緩和補助金の縮減の影響から、徐々に上昇傾向にあるが、前年同月の価格の方が高い状況にある。
	農機具小売業	→	↘	↗	↘	↘	→		→	↘	・商品価格が値上げされ、業界全体が低調である。 ・除雪機を大量に取り扱っている組合員は、依然として好調をキープしている。
	ショッピングセンター	→	→	→	→	→	→		→	→	・夏の大感謝祭の開催によって、大勢の来客があり、全体では、前年同月比で売上は109.7%、客数は97.6%となっている。
	ショッピングセンター	↗	→	↗	→	↘	↘		→	↘	・物価高や電気料金高騰により、収益は悪化している。 ・物価高に対する消費者の生活防衛意識がより高まっており、大きな不安材料である。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	商店街	→	→	→	→	→	→		→	→	・祭りの人出は予想以上であったが、回遊面ではあまり効果はなかったようである。 ・商店街駐車場の利用状況は、まだまだ少ない。 ・個人や小グループでの飲食店の利用は増えてきているが、団体での利用は控え目である。
	商店街	↗	↗	↗	→	↗	↗		→	↗	・物販関係、飲食関係への人出について、共に前年同月比で10%~15%の伸びとなっており、順調に回復している。
サービス業	クリーニング業	↗		↗	→	→	→		→	↗	・企業やイベント関連の需要は好転し、コロナ禍前の水準に戻りつつあるが、行動変容により個人客の需要は芳しくない。 ・今後、サービスの内容見直しや追加が必要である。
	飲食業	↗		↗	→	↗	→		→	↗	・売上は、前年同月比で12%増加している。 ・昼は客の入りが安定してきているが、夜はムラがあり予測がしにくい。
	建築設計業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・6月の自動車新車新規登録・届出台数は、前年同月比で10ヵ月連続で増加しているが、コロナ禍前の状況には至っていない。材料や部品の供給不足による生産調整の影響は着実に縮小しているものの、現状の受注残を大きく解消するだけの生産体制の構築は依然として厳しい状態である。 ・受注残の解消後は、ウクライナ情勢や為替市場、物価高騰の状況によっては、自動車の車両価格が更に値上げとなり、購買意欲が薄れ、新車販売台数の減少となることが予想される。 ・自動車整備事業者は、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められ、更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題を抱えており、対応できない事業者は扱える車種が加速度的に減少していく状況である。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	↗		↗	→	→	→		→	→	・電気料金や運送費等の値上がり分の価格転嫁がある程度認められ、まだ十分ではないが鉄骨価格は上昇している。 ・図面承認の遅延が酷くなっており、特に大手鉄骨加工業者では、工場が長期間空いたり、逆に残業を余儀なくされたり、採算面で最も足を引っ張っている。
	一般土木建築工事	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→		↘	→	・景況に変化はない。 ・資器材等の各メーカーは、4月に10%~30%値上げをしたところだが、更なる値上げを打ち出してきており、価格高騰は続きそうである。 ・水道管工事が多く発注されるものの、現場代理人を含め人手不足な会員が多く、受注したくても出来ない状況である。 ・資格取得に関する講習会への参加人数が減ってきており、採算面から継続していけるか懸念している。
	電気工事業	↗		↗	→	↗	→		→	↗	・民間企業の設備投資や住宅着工増加により好転傾向にある。 ・エアコン需要期を迎え、とやま省エネ家電応援キャンペーンとの相乗効果により、工事増加が予想される。
運輸業	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・物流全体の動きが悪い。
	道路貨物運送	↘		→	→	→	→		→	→	・燃料価格について、前年同月比-2.0円/ℓと下がっているものの、依然として高値で推移している。前月比では+3.8円と上昇している。 ・物量については、前年同月比95.3%と落ち込みが大きい。